

自動撮影カメラを使用した 「緩衝帯整備によるイノシシ出没減少効果」の検証

1 背景・目的

野生獣の出没を抑制することを目的に、いしかわ森林環境基金事業により、過密化した里山林において森林の見通しを良くする立木竹の伐採や刈払い等の緩衝帯整備を実施している。そこで、イノシシの出没が問題となっている5集落を対象に自動撮影カメラ(写真1)を設置し、イノシシ(写真2)の撮影頻度を整備前後で比較して、その効果を検証する。



写真1 自動撮影カメラ



写真2 撮影されたイノシシ

2 技術のポイント

整備後4年間で、すべての調査集落でカメラの撮影頻度は減少しており、緩衝帯整備がイノシシの出没を抑制できることが示されている(図)。

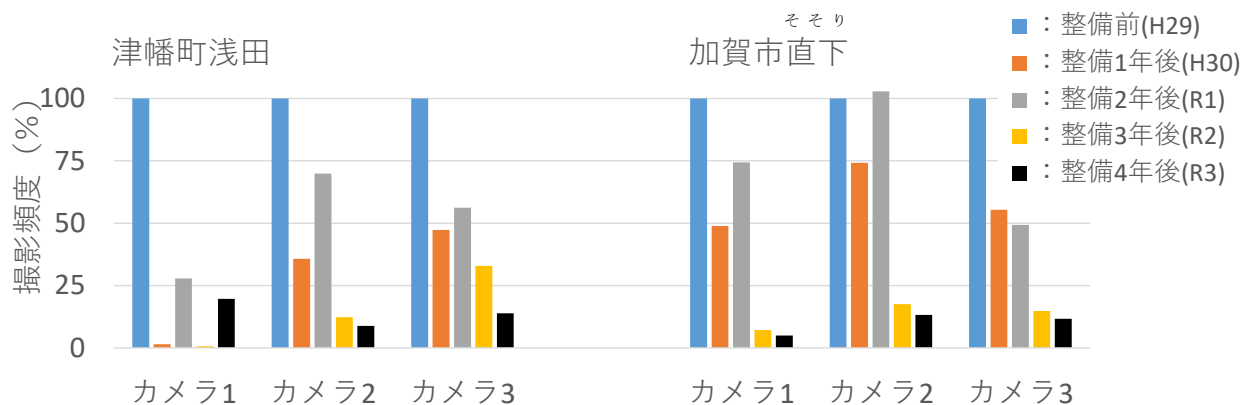


図 整備前と整備後のイノシシ撮影数の比較
縦軸は各カメラの整備前の撮影枚数を100%とした場合の相対値

3 成果の活用と留意点

- (1) 整備効果を持続させるため、藪の刈払いなどを継続する必要がある。
- (2) 被害を恒久的に減少させるためには、捕獲などにより、個体数密度を低下させることが必要である。

問合先：資源開発部 TEL 076-272-0673
担当者：江崎功二郎